

報道機関各位

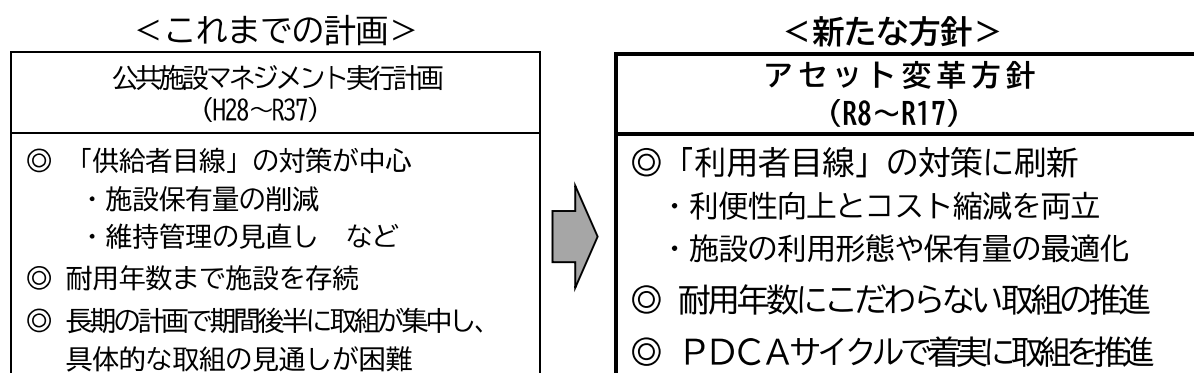
「北九州市アセット変革方針（素案）」について

1 策定の趣旨

北九州市では、平成 28 年に「公共施設マネジメント実行計画」を策定し、取組を進めてきましたが、施設を耐用年数まで使い切って廃止とするなど、多くの施設で新たな発想が生まれにくい構造となっています。

さらに、施設利用者のニーズの変化や多様化に加え、施設の整備・管理運営における公民連携やDXの全国的な流れなど、社会情勢は大きく変化しています。

これらを受けて、公共施設のあり方についても発想の転換が求められていることから、本方針を策定するものです。



2 方針の2つの柱

(1) 新たな価値の創出

公民連携による施設の新設・運営や、利便性の高いエリアへの機能集約、DXの導入により、市民の利便性向上と運営の効率化を両立させます。

(2) 資産価値の最大化

当初の目的が薄れた施設の用途変更や多機能化、「まちづくり」の視点による施設・土地の売却・貸付の戦略的推進、にぎわいの創出に向けた施設の魅力向上を目指します。

3 方針の3つの視点

(1) 利用者ニーズに基づく価値の再定義

(2) 新技術の活用による社会情勢の変化への対応

(3) 次世代へつなぐ責任ある行財政運営



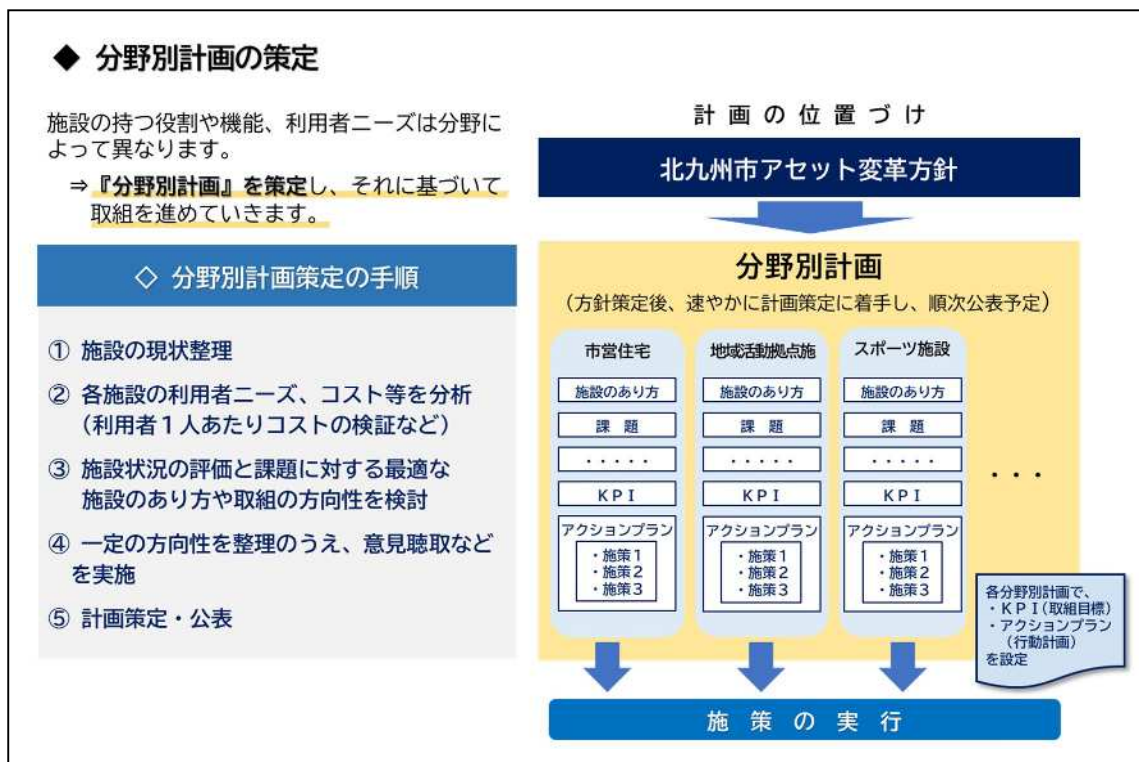
4 推進体制

(1) 分野別計画の策定

施設分野ごとに、KPIやアクションプラン等を設定します。

(2) PDCAサイクルによる取組の推進

毎年度の予算編成と連動し、進捗評価・見直しを行うサイクルを構築します。



5 今後のスケジュール(予定)

令和8年 8月 市民意見の聴取(パブリックコメント)

(8月10日(月)～9月9日(水))

10月 方針の策定、公表

※ 方針策定後、速やかに分野別計画の策定に着手し、順次公表予定

【お問い合わせ先】

財政・変革局アセットマネジメント推進室

次長: 白馬(はくば)、担当係長: 三角(みすみ)

TEL:093-582-2076

新方針の2つの柱を実践している取組事例

玄海青年の家 (若松区)

こどもの体験活動の場を残しつつ
観光客も訪れる施設へ

休日



※観光客 (イメージ)

平日



※こどもの体験活動 (イメージ)

- ✓ 民設民営による宿泊施設へ
- ✓ 平日は、こどもの宿泊体験活動を維持
- ✓ 休日は、観光客が利用
- ✓ 市・利用者・事業者のそれぞれにメリット

市にとって

施設建設・管理コストの縮減と
サービスの向上

利用者にとって

質の高い体験活動と
快適な滞在

事業者にとって

平日の宿泊体験活動による
安定した運営

八千代町団地 (八幡西区)

使われなくなった市営住宅を
新たな住まいへ

- ✓ 役割を終えた市営住宅を建物付きで売却
- ✓ 民間のノウハウを生かした良質な住まいへ再生
- ✓ 高齢者・子育て世代など多様な世帯を受け入れ
- ✓ 地域コミュニティの活性化につなげる



※イメージ



安心して暮らせる
住まいに



多世代がつながる
コミュニティへ



地域の魅力と
価値を高める